

I 「無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。

互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。

神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです」エペソ4：31，32。

1. 無慈悲、憤り、怒り、ののしり、一切の悪意を捨て去ることが出来るように、正直に、神に祈ろう。

私達の心に住んでおられる聖霊なる神は、それらの罪の代わりに、「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」（ガラテヤ5：22，23）の心を与えて下さる。

2. 自分の力で、愛せない人を赦す事は無理。

自分の力で人を赦そうと頑張るのではなく、神の前に静まり、自分自身が、今日まで、キリストの十字架の恵み（私達の罪の償いの死）の故に、どんなに赦され続けているか、先行する神の恵みを思い起こし、心から神に感謝したい。そうする時、神が、「私達は、人を赦さない資格はない」と分からせて下さる！

「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ」哀歌3：22

II 愛をもって聴く事と愛をもって語る事のバランス。心の通う対話の大切さ。

「人はだれでも、聞くのに早く（相手の気持ち、言葉に、ゆっくり耳を傾ける）、

語るのに遅く（祈りもせず、相手の状態も考えず、一方的に語る事をしない。まず相手の気持ちを静かに聞く）、怒るのに遅く（怒りの感情が先行する時、言葉は、対話ではなく、怒号となり、相手は委縮し、傷つく。

※現代では、「パワハラ」となる。怒りを遅くすると、自分の怒りの感情も落ち着き、穏やかに、聴き、語る事ができる。怒りを遅くする時、神が、自分と相手に働かれる時間を与える益となる）

ありなさい」ヤコブ1：19。

良く聴くと同時に、祈りつつ自分の気持ちや考えも相手に伝える（伝えられる人も、さえぎらず、良く聴く）。

「愛をもって真理（真実）を語り」エペソ4：15。

「隣人に対して真実を語りなさい」：25。

III 夫婦、親子、教師と生徒、監督と選手、牧師と信徒他、すべての人間関係に当てはまる大切な原則。

1. 相手を支配してはならない。

最初の人アダムとエバは、神に罪を犯す前は、「互いに愛し合う関係」だった。

しかし、アダムとエバが罪を犯してから、「互いに支配し合う関係」に墮落した。

「あなた（妻）は夫を恋慕う（この原語は、創世記4：7でも使われている。文脈の意味としては、「支配しようとする」の意）が、彼はあなたを支配することになる」創世記3：16。

人に罪が入ってから、夫婦、親子、兄弟姉妹、社会の人間関係のすべてが、神の愛で「互いに愛し合い、仕え合う関係」から、「権力闘争、互いに支配しようとする関係」に墮落した。

アダムとエバ以来、人間の歴史は、「支配するか、支配されるかの関係」になってしまった。

完全に正しい健全な支配者（私達を、ただ、ロボットとして従う者ではなく、自由意思、人格を働かせて、神の先行する恵みに感謝し、喜んで従う事を喜ばれる支配者）は人にはなく、神、キリストのみ。

人を人格的に縛ってはならない。

相手に、健全な「はい、いいえ」を言わせない威圧感を与えてはいけない。

2. 相手から支配されてもいけない。

「あなたがたは、代価（キリストの十字架の血、命）を払って買い取られた（滅びから救われ、神のものとなった）のです。人間の奴隷となっははいけません」 I コリント7：23。

①支配的な人に、祈りつつ主から勇気をいただいて、「はい、いいえ」を言う。

これは、相手の為にもなる。支配的な人が、耳を傾ける人になるかもしれない。

②支配的な人が変わらず、どんどん支配、人格まで縛る、暴力で従わせるのであれば、祈りつつ健全な距離を置く。自分を健全な意味で守る必要がある。

IV 直接、愛をもって、本人に言わないで、悪口として、他の人に言いふらす事は、教会の一致、人間関係の一致を壊す。(悪く言いふらす事は良くないが、改善のために信頼できる人に相談する事は健全。その相談を受けた人は、他言せず、すべてをご存知の神に祈る)

「国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。もし家が内部で分裂したら、その家は立ち行きません」
マルコ3：24, 25。

聖書の答え→本人と交わる。

「もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで指摘しなさい。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たこととなります」マタイ18：15。

「私たちの律法は、まず本人から話を聞き、その人が何をしているかを知ったうえでなければ、さばくことをしないのではないか」ヨハネ7：51。

V 「あなたがたの愛が、知識（神を深く知り続ける）とあらゆる識別力（①御聖霊が与えられる。②失敗の経験から学ぶ）によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、大切なことを見分けることができますように」
ピリピ1：9, 10。

何でもやってあげるのは、真の愛ではない。

助けを必要としている時、何もしてあげないのは愛がない。

それでは、真の愛はどのような愛？

それは、神が与えて下さる識別力により判断し、真に相手の為になる愛、必要な愛を実践する。

識別の助け＝それは、①神の分、領域か

②その人自身がなすべき分か

③自分自身が行う分か

④一人ではなく、互いに助け合うものか？祈り求める。

VI 「私たちは、自分自身を推薦している人たちの中のだれかと、自分を同列に置いたり比較したりしようとは思いません。彼らは自分たちの間で自分自身を量ったり、互いを比較し合ったりしていますが、愚かなことです」Ⅱコリント10：12。

①人と比べて、劣等感や優越感を持たず、神が、自分に与えた分、能力、賜物を感謝し、神と人の為に用いる。

②自分が幸せであるかを決めるのは、自分の心。人と比べて、自分にないものを数え、人をねたむ人は、いつまでも幸せでない。ないものではなく、神が自分に与えられているものを数え、感謝の心を持つ人は、真に幸せな人。

「感謝の心を持つ人になりなさい」コロサイ3：15。

③感謝の心を持つ人は、まず神に感謝し、人にも感謝し、人に優しくなれる。

「私たちは互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです」Ⅰヨハネ4：7

励まし：愛は、自分の力で生み出すものではなく、神からいただける恵み。神が、私たちの心に生み出して下さる恵み。

「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」ガラテヤ5：22, 23